

第2期 高知県がん対策推進計画

資料2

	取り組む施策	取組項目	取組機関等						
			拠点病院	推進病院	教育機関	がん診療連携協議会	医療機関	関係団体	検診機関
■ 期防が 推及が 進見びん の早予	【がん予防】 ア 喫煙対策	(ア) 医師会は、禁煙治療に保険が使える医療機関を増やし、禁煙治療を受けやすい環境づくりに努める						医師会	
	エ がん検診	(ウ) 検診機関は要精密検査対象者のフォローアップを行い、未受診者に対する受診勧奨に努める							○
■ がん 医療水 準の向 上	ア 拠点病院等の機能充実	(ア) がんに関する主な治療法の知識を持った医師に加え、がん治療全般を理解しつつ、最適手術を提供し得る知識と技能を有する医師を育成する	○ 県拠点						
		(イ) 手術療法、放射線療法、化学療法、緩和ケア、口腔ケア等がん医療に専門的に関わる医療従事者の確保・育成に努める	○	○					
		(ウ) 地域のがん診療を行っている医療機関に対する診療支援や地域のがん診療に携わる医療従事者に対する研修等を通じて、地域全体のがん医療水準の向上に努める	○	○					
		(オ) 手術療法、放射線療法、化学療法の各種医療チームを設置し、各職種専門性を活かし、医療従事者間の連携と補完を重視した多職種でのチーム医療を推進する	○	○					
		(カ) 各種がん治療の副作用・合併症の予防や軽減など患者の更なる生活の質の向上を目指し、医科歯科連携による口腔ケアの推進をはじめ、食事療法などによる栄養管理やリハビリテーションの推進など、職種間連携を推進する	○	○					
	イ がん診療に携わる人材育成	(ア) 専門的にがん治療を行う医師、歯科医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師等の医療従事者を確保・適正配置するため、研修の充実及び質の向上に努めるとともに、国立がん研究センターが実施する研修に職員を積極的に派遣し、人材育成に取り組み、医療従事者が協力して診療に当たることができる体制を整備する			高知大 県立大				
		(イ) 拠点病院等におけるがん医療体制をさらに充実するため、「中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム」によるがんに関する専門の医療従事者の養成を推進する							
		(ウ) 患者及び家族に最も近い職種として医療現場での生活支援にも関わる看護領域については、外来や病棟等のがん看護体制の更なる強化を図るために、専門看護師や認定看護師の配置を促進する	○	○					
		(エ) がん看護領域に関連する専門看護師や認定看護師の質やスキル向上を図る			高知大 県立大				
	ウ 医療連携体制の整備	(オ) がん医療従事医師のコミュニケーション技術の向上を図る		○	○				
		(ア) 構成委員と連携して、現在整備されている地域連携クリニカルパスの普及を促進する				○			
		(イ) 拠点病院を中心として、緩和ケア病棟、緩和ケア外来、緩和ケアチーム、在宅療養支援診療所・在宅療養支援病院等との相互支援や情報の共有化を進めることにより、地域ごとの連携強化を図る		○	○				
(ウ) 遠隔病理診断装置のネットワークにより、各医療機関への診断支援を行う		○ 県拠点							
エ セカンドオピニオン体制の整備	(ア) 患者が当たり前にセカンドオピニオンを受けられよう体制を整備する		○	○			○ がん診療 を行う病院		
	(イ) セカンドオピニオンの活用を促進するため、患者や家族への普及啓発を図る		○	○			○ がん診療 を行う病院		
オ 小児がん対策	(ア) 小児がん拠点病院との役割分担及び連携を進め、小児がん対策を推進する		○	○			○		
	(イ) 患児が成長発達する時期を可能な限り慣れ親しんだ地域に留まり、他の子どもたちと、同じ生活・教育環境の中で医療や支援を受けられるような環境を整備する		○	○			○		
	(ウ) 小児がん経験者が安心して暮らせるよう、地域の中で患者とその家族の不安や治療による合併症、二次がんに対応できる長期フォローアップ体制とともに小児がん経験者の自立に向けた心理社会的な支援について検討する		○	○					
■ がん 患者等 への支 援	ア がん相談体制の整備・充実	(ア) 相談支援センター等の全相談員に国立がん研究センターが実施する相談員研修を受講させるなどして相談員の相談支援技術の向上を図るとともに、相談者のニーズに応じた相談支援ができるよう相談支援センターの相談機能の充実・強化に努める拠点病院等の相談支援センター業務の均一化を図る	○	○					
		(イ) 各相談支援センター等に寄せられる相談内容の共有や協力体制の構築及び相談者からのフィードバック等を通じてがん患者や家族の立場に立った相談対応に努める	○	○					
		(ウ) 患者に診断内容等を説明する際は、冊子や視覚教材などの分かりやすい教材の活用や、看護師やソーシャルワーカーの同席など患者やその家族が十分理解できる環境を整備する	○	○			○		
	イ 相談窓口に関わる人材育成	(ア) 相談支援センターと院内診療科との連携を図り、特に精神心理的苦痛を持つ患者とその家族に対して専門家による診療を適切な時期に提供できるよう努める	○	○					
		(イ) 医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会等の関係団体は、医師等医療関係者のコミュニケーション能力の向上や医療コーディネーターの育成などに努め、患者との意思疎通を一層図れるように努める						医師会 歯科医師会 薬剤師会 看護協会等	
	ウ がんに関する情報提供の充実	(ア) がんに関する治療や正しい知識等の情報をインターネットやパンフレット等様々な手段を通してがん患者及びその家族が入手できるようにする。緩和ケアをはじめとするがん医療を身近なものと感じてもらえるように努める		○	○				
(イ) 地域の医療機関等との連携体制の状況に関する情報を提供する			○	○					
(ウ) 診療実績、専門的にがん診療を行う医師、相談窓口に関する情報等を、院内掲示するとともに、ホームページ等がん患者・家族等に分かりやすい形で提供できるよう努める			○	○					
■ 緩 和ケ ア	ア 医療従事者の育成	(ア) すべてのがん診療に携わる医師及び医療従事者が緩和ケアについての基本的な知識を習得できるよう国の指針に基づいた研修を引き続き実施する	○						
	イ 緩和ケア実施体制の充実	(ウ) 緩和ケアに従事する関係者間での相互理解と連携を進めることにより、緩和ケアチームなどが提供する専門的な緩和ケアを患者及び家族が受けやすくとともに、緩和ケアの質の向上を図る	○	○					
■ 地 域の 医療 制・ 介 護サ ー ビ ス 提 供 体	ア 医療・介護サービス従事者の育成	(イ) 訪問看護ステーション連絡協議会及び看護協会は、関係団体と協力して、訪問看護師の育成・研修システムを早期に確立し、「みとりのできる訪問看護師」の養成を目指します。						訪問看護ST 連絡協議会 看護協会	
		(ウ) 県歯科医師会は、がん患者が術前・術後、在宅においてスムーズに歯科治療・口腔管理を受けられるような歯科領域の専門職研修システムの確立を目指す						歯科 医師会	
		(エ) 訪問薬剤師の育成・研修システムの確立を目指す						薬剤師会	
	イ 在宅医療・介護サービス提供体制の構築	(ア) 県及び関係団体は、「在宅緩和ケアに関する県民向け講演会」を開催するとともに、社会資源や様々な制度についてホームページへの掲載や、啓発冊子の作成などにより、情報提供を行う						緩和ケア 協会	
		(イ) 緩和ケアスタッフと専門科スタッフの連携体制を強化するとともに、適切な時期に在宅緩和ケアを提案できるコーディネーターの養成に努める		○	○			○ がん診療 を行う病院	
		(ウ) 在宅医療提供機関は、医師会や病院と連携し在宅での医療のみで患者や家族を支えきれないときのためのバックアップの確保等、病診連携のためのシステムを構築する						○ 在宅医療 提供機関	
		(エ) 退院時カンファレンスを在宅医を含めた在宅医療スタッフが出席可能な時間帯に設定できるよう努める		○	○			○ がん診療 を行う病院	
		(オ) 麻薬や中心静脈栄養剤などの特殊薬剤を含めた薬剤の在庫共有システムの構築を目指す						薬剤師会	
		(カ) 県歯科医師会は、歯科医師の在宅診療の可否等の確認を行うとともに、県民に対しては、在宅歯科連携室の周知活動を行う						歯科 医師会	
									県医師会
■ 登 録が 進 の	ア 地域がん登録の推進と登録情報の活用	(ア) 県医師会は、地域がん登録の精度向上のために、地域の医療機関に地域がん登録について周知し、定期的に地域がん登録への協力依頼を行う						県医師会	
	イ 院内がん登録の推進	(イ) 各取組事例を県内医療機関に情報提供するとともに、がん登録に対する技術支援を互いに行う	○						
	イ 院内がん登録の推進	(ウ) 院内がん登録を推進するためには、がん登録の実務を担う職員の育成・確保が必要であることから、高知がん診療連携協議会等において、実務者の情報共有及び研修会を実施				○			

第2期 高知県がん対策推進計画 < 施策の推進状況について >

別紙

■都道府県がん診療連携拠点病院における取組

施設名: 高知大学医学部附属病院

	取り組む施策	取組項目	平成27年度の実績	平成28年度の実績(計画含む)
	ア 拠点病院等の機能充実	<p>がんに関する主な治療法の知識を持った医師に加え、がん治療全般を理解しつつ、最適な手術を提供し得る知識と技能を有する医師を育成する</p> <p>(イ) 手術療法、放射線療法、化学療法、緩和ケア、口腔ケア等がん医療に専門的に関わる医療従事者の確保・育成に努める</p> <p>地域のがん診療を行っている医療機関に対する診療支援や地域のがん診療に携わる医療従事者に対する研修等を通じて、地域全体のがん医療水準の向上に努める</p> <p>(ウ) 手術療法、放射線療法、化学療法の各種医療チームを設置し、各職種(オ)の専門性を活かし、医療従事者間の連携と補完を重視した多職種でのチーム医療を推進する</p> <p>(カ) 各種がん治療の副作用・合併症の予防や軽減など患者の更なる生活の質の向上を目指し、医科歯科連携による口腔ケアの推進をはじめ、食事療法などによる栄養管理やリハビリテーションの推進など、職種間連携を推進する</p>	<p>・各種腫瘍ボードを開催した。</p> <p>・院内全体のがんカンサード(月1回)を開催した。</p> <p>・緩和ケア学習会(毎月)を開催した。</p> <p>・副作用対応を含めた放射線療法・化学療法に関する研修会(12月1日)</p> <p>・ハワイ国際交流セミナー&視察研修(2月)</p> <p>・インテンシブコース集中セミナー(多職種によるワークショップ)を県東部(7月:参加者36名)、県中央(8月:参加者49名)、県西部(11月:参加者23名)で開催した。</p> <p>・在宅がん医療講演会(2月:参加者51名)を開催した。</p> <p>・低侵襲手術教育・トレーニングセンターでHow to がん疼痛Web Lectureを開催した。</p>	<p>・各種腫瘍ボードを開催している。</p> <p>・院内全体のがんカンサード(月1回)を開催している。</p> <p>・緩和ケア学習会(毎月)を開催している。</p> <p>・低侵襲手術教育・トレーニングセンターにおいて、ロボット手術ハンズオンセミナーを開催した(7月)</p> <p>・副作用対応を含めた放射線療法・化学療法に関する研修会(12月15日)</p> <p>・ハワイ国際交流セミナー&視察研修(2月)</p> <p>・インテンシブコース集中セミナー(多職種によるワークショップ)を8月(参加者22名)に開催した。在宅がん医療講演会を2月頃に開催予定。</p> <p>・医療従事者を対象とした在宅緩和ケアの講演会(参加者45名)を8月に開催した。</p> <p>・在宅療養をテーマにした市民公開講座を開催予定(1~2月)。</p> <p>・低侵襲手術教育・トレーニングセンターでHow to がん疼痛Web Lectureを開催している。</p> <p>・がんの外科医であり、がん患者となった金沢赤十字病院 西村先生の講演を行う(1月12日)</p>
	イ がん診療に携わる人材育成	<p>専門的にがん治療を行う医師、歯科医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師等の医療従事者を確保・適正配置するため、研修の充実及び質の向上に努めるとともに、国立がん研究センターが実施する研修に職員を積極的に派遣し、人材育成に取り組み、医療従事者が協力して診療に当たることができる体制を整備する</p> <p>(ウ) 患者及び家族に最も近い職種として医療現場での生活支援にも関わる看護領域については、外来や病棟等でのがん看護体制の更なる強化を図るために、専門看護師や認定看護師の配置を促進する</p> <p>(オ) がん医療従事医師のコミュニケーション技術の向上を図る</p>	<p>・看護師4名が国立がん研究センター主催のがん看護専門分野指導者研修を受講し、他部署、多職種との連携を強化し、がん看護の質向上を図った。</p> <p>・がんプロの取組として、研修先をがん研有明病院での、国内FD研修を実施した。</p> <p>・OCNS 3名、LCNS 1名、PCCN 1名をがん治療センター所属とし、緩和ケアチームでの活動を含め院内全体でのがん医療の充実に取り組んだ。</p> <p>・がんプロの取組により、がん専門医療人を育成した。</p> <p>・学部学生に対して、臨床腫瘍学の講義を行った。</p> <p>・学部学生に対して、授業の一環としてがん相談支援センターにて、がん相談の見学を実施した。</p>	<p>・国立がん研究センター主催のがん看護専門分野指導者研修の受講を7名が修了予定。</p> <p>・今年度、人事異動があり、がん治療センターの人員はOCNS 2名、PCCN 1名、BCCN 1名となった。緩和ケアチームでの活動を軸に外来・病棟看護師、多職種との連携を深めている。</p> <p>・がんプロの取組により、がん専門医療人を育成している。</p> <p>・学部学生に対して、臨床腫瘍学の講義を行っている。</p> <p>・学部学生に対して、授業の一環としてがん相談支援センターにて、がん相談の見学を実施している。</p>
■がん医療水準の向上	ウ 医療連携体制の整備	<p>(イ) 拠点病院を中心として、緩和ケア病棟、緩和ケア外来、緩和ケアチーム、在宅療養支援診療所・在宅療養支援病院等との相互支援や情報の共有を進めることにより、地域ごとの連携強化を図る</p> <p>(ウ) 遠隔病理診断装置のネットワークにより、各医療機関への診断支援を行う</p>	<p>(イ) 外来患者に対して「在宅緩和ケア移行シート」のテスト運用を行い、主治医・地域医療連携室・外来看護師・緩和ケアチームが協働して患者・家族を支援する運用フローを作成した。</p> <p>・緩和ケア学習会で院外講師を招いて「在宅緩和ケア」について講義を実施した(参加者:33名)。</p> <p>・共通の看護管理者の配置を行い、当院地域医療連携室と、がん看護外来・緩和ケアチームとの協働強化を図った。</p> <p>・地域医療連携室のマンパワー強化(看護師実働2名→3名・MSW実働5名→7名)を図り、連携構築を推進した。</p> <p>・高知県地域医療連携ネットワーク会の活動を通じて、(がんに限らず)病病連携や介護保険関連機関との連携を図る取り組みを行っている。</p> <p>・昨年度までの成果と課題をもとに緩和ケアセンターと地域医療連携室が連携して、外来がん患者・家族の療養場所選定における意思確認や支援体制整備を始めている。</p> <p>・外来において「在宅緩和ケア移行シート(高知県在宅緩和ケア推進連絡協議会アクションプラン)」試行し、主治医・看護師と協働して外来患者の在宅医選定・転院調整における病病連携や病診連携の体制づくりを進めている。</p> <p>・入院での活動も昨年度から引き続いて行っている。</p> <p>(ウ) 本学にシステムはあるが、他病院でシステムが整備されておらず、診断支援できていない。</p>	<p>(イ) 「在宅緩和ケア移行シート」の運用を開始し、8名に試行した。</p> <p>・緩和ケア学習会は「訪問看護」について院外講師に依頼・計画している。</p> <p>前年度の取り組みを継続する。</p> <p>(ウ) 本学にシステムはあるが、他病院でシステムが整備されておらず、診断支援できていない。</p>

■都道府県がん診療連携拠点病院における取組

施設名:高知大学医学部附属病院

	取り組む施策	取組項目	平成27年度の実績	平成28年度の実績(計画含む)
オ	エ セカンドオピニオン体制の整備	(ア) 患者が当たり前にセカンドオピニオンを受けられよう体制を整備する	平成27年度の実績 診療情報提供作成件数・・・49件 セカンドオピニオン件数・・・44件	平成28年度の実績(H28.4～9実績) セカンドオピニオン件数・・・32件 診療情報提供作成件数・・・22件 ・ポスター等の掲示物あるいは診療等の相談時にセカンドオピニオンの広報に努めている
		(イ) セカンドオピニオンの活用を促進するため、患者や家族への普及啓発を図る		
	オ 小児がん対策	<p>(ア) 小児がん拠点病院との役割分担及び連携を進め、小児がん対策を推進する</p> <p>(イ) 患児が成長発達する時期を可能な限り慣れ親しんだ地域に留まり、他の子どもたちと、同じ生活・教育環境の中で医療や支援を受けられるような環境を整備する</p> <p>(ウ) 小児がん経験者が安心して暮らせるよう、地域の中で患者とその家族の不安や治療による合併症、二次がんに対応できる長期フォローアップ体制とともに小児がん経験者の自立に向けた心理社会的な支援について検討する</p>	<p>小児がん拠点病院(広島大学病院)を中心に小児がん診療病院(連携病院)間で、小児科医師および看護師が情報の発信とその共有が出来るシステム(テレビ会議システム)を活用して、小児がん診療の均てん化を推進している。</p> <p>小児がん拠点病院と連携し、可能な限り地域に留まって最新の医療や支援を受けられる体制を整備・維持している。入院中は院内学級と、退院後は地域(学校・幼稚園、保健師など)と連携して医療や支援を受けられるような環境整備を行った。</p> <p>医療機関内では小児科が中心となり他科の協力を得て、診断時から治療終了後の長期フォローアップまでの医療が持続的に提供できる体制づくりを整備している。</p>	<p>昨年度に引き続き、小児がん拠点病院(広島大学病院)を中心に小児がん連携病院間で、テレビ会議システムを活用して、小児がん診療の均てん化を推進する。小児科医師、小児科病棟看護師だけではなく、小児科担当MSW、薬剤師、専門看護師(家族支援)も参加する。</p> <p>昨年度に引き続き、小児がん拠点病院と連携し、可能な限り地域に留まって最新の医療や支援を受けられる体制を整備・維持する。院内学級の教員、メディカルスタッフの協力を得て、地域(学校・幼稚園、保健師など)と連携して、医療、教育、支援を受けることができる環境を充実させる。</p> <p>行政ならびに患者会(がんの子どもを守る会)の協力を得て、診断時から治療終了後の長期フォローアップまでの医療が持続的に提供できる体制づくりを推進する。</p>
■がん患者等への支援	ア がん相談体制の整備・充実	<p>(ア) 相談支援センター等の全相談員に国立がん研究センターが実施する相談員研修を受講させるなどして相談員の相談支援技術の向上を図るとともに、相談者のニーズに応じた相談支援ができるよう相談支援センターの相談機能の充実・強化に努める 拠点病院等の相談支援センター業務の均一化を図る</p> <p>(イ) 各相談支援センター等に寄せられる相談内容の共有や協力体制の構築及び相談者からのフィードバック等を通じてがん患者や家族の立場に立った相談対応に努める。</p>	<p>・高知県の医療機関を対象とした「がん相談員研修」を県や他のがん相談支援センターと共に年度内2回開催した。(平成27年9月15日、平成28年2月6日)</p> <p>・がん相談の統計シートを県下統一に向けて検討した。次年度に継続する。</p> <p>・国立がん研究センターで開催の情報提供・相談支援部会に出席し、高知県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供相談支援部会で報告し県の取り組みに活かしている。</p>	<p>・高知県の医療機関を対象とした「がん相談員研修」を県や他のがん相談支援センターと共に年度内2回開催した。(平成28年11月5日、平成29年2月開催予定)</p> <p>・相談支援センターのスタッフが統一した対応がとれるように、がん相談員基礎研修1・2は4名が受講中。基礎研修3は1名が受講した。</p>
		<p>(ウ) 患者に診断内容等を説明する際は、冊子や視覚教材などの分かりやすい教材の活用や、看護師やソーシャルワーカーの同席など患者やその家族が十分理解できる環境を整備する</p>		
	イ 相談窓口に関わる人材育成	<p>(ア) 相談支援センターと院内診療科との連携を図り、特に精神心理的苦痛を持つ患者とその家族に対して専門家による診療を適切な時期に提供できるよう努める</p>	<p>相談支援センターには、院内外と連携を実務する専門職と看護師が配属されており、各診療と密に連携できる体制があり、精神面で専門的な診療・治療が必要と判断された患者さんやご家族には、双方で情報交換し対応した。</p>	<p>今年は、がん相談に配属されている看護師が専従で業務にあたることができるように配慮し、がん相談業務の見直しや県・他のがん相談支援センターとの連携強化に努めた。</p> <p>・がん相談センターこうち主催の研修会において講演する。</p>
	ウ がんに関する情報提供の充実	<p>(ア) がんに関する治療や正しい知識等の情報をインターネットやパンフレット等様々な手段を通してがん患者及びその家族が入手できるようにする。 緩和ケアをはじめとするがん医療を身近なものと感じてもらおうように努める。</p> <p>(イ) 地域の医療機関等との連携体制の状況に関する情報を提供する</p> <p>(ウ) 診療実績、専門的にがん診療を行う医師、相談窓口に関する情報等を、院内掲示するとともに、ホームページ等がん患者・家族等に分かりやすい形で提供できるよう努める</p>	<p>がんに関する知識や治療について書かれた冊子やパンフレットを、患者さんの目に就きやすい場所(総合案内、入院サポートセンター、がんサロン、診療科外来等)に定位置を決めて設置している。これについては患者さんの関心がどこにあるのかを月に1回確認すると同時に、古い情報のものは削除し新しいものと入れ換えてる機会としている。</p> <p>・市民公開講座(9月4日)小中学校への出前教育(H28.3.7北陵中)などががんに関する情報を提供。</p> <p>・土佐町保健福祉センターにて「どうせなら楽に治そう“がん”-早期発見・体にやさしい手術・最新ロボット手術-」の講演を行った。(8月27日)</p>	<p>がんに関する知識や治療について書かれた冊子やパンフレットについては、今年度より利用状況を確認するために、定数配置し月1回確認することにした。高知県立図書館設立と併って、がん征圧月間などのイベントで、がん相談行う事を取り決めた。</p> <p>・就労支援相談を毎月第4月曜日に院内でハローワーク高知のスタッフと協働で行っている</p> <p>・市民公開講座を開催した。(9月3日)</p> <p>・出前教育(H29.1.31稲生小学校)や、高校生に対する教育など、がんに対する教育を行っている。</p> <p>・就労支援相談を毎月第4月曜日に院内ハローワーク高知のスタッフと協働で行っている</p> <p>・患者支援イベントにおいて、乳がん患者への自己啓発活動禁煙教育を行った。</p>

■都道府県がん診療連携拠点病院における取組

施設名: 高知大学医学部附属病院

	取り組む施策	取組項目	平成27年度の実績	平成28年度の実績状況(計画含む)
■緩和ケアの推進	ア 医療従事者の育成	(ア) すべてのがん診療に携わる医師及び医療従事者が緩和ケアについての基本的な知識を習得できるよう国の指針に基づいた研修を引き続き実施する	・医師に対する緩和ケア研修会は、各科の受講状況を確認・報告し、未受講者を割り出し、受講を促進した。受講率は主治医や担当医になる医師は67.2%・初期研修2年目から終了後3年目までの医師は52.5%となった。	・医師に対する緩和ケア研修会は、今年度3回計画しており、2回終了時点で、主治医や担当医になる医師は72.4%、初期研修2年目から終了後3年目までの医師は73.5%が受講済みである。平成29年6月までに目標の9割以上をめざす。 ・院内の医療従事者に対して、院内外の講師による緩和ケア学習会を、月1回開催している。
		(ウ) 緩和ケアに従事する関係者間での相互理解と連携を進めることにより、緩和ケアチームなどが提供する専門的な緩和ケアを患者及び家族が受けやすくするとともに、緩和ケアの質の向上を図る	・がん看護外来の運用と関係者間のカンファレンスの実施を行った。 ・一部の診療科において苦痛のスクリーニング実施・評価を継続している(2015年3月～2016年5月(15ヶ月)で229人、のべ990回実施した)	・スクリーニングは診療科の拡大を計画的にすすめている。 ・緩和ケアに関する情報を院内医療者がいつでも活用できるように院内webを開設した。今後は内容の充実を図る。
	イ 緩和ケア実施体制の充実	(ア) 専門的な緩和ケアの質の向上のため、緩和ケアチームや緩和ケア外来への専門職の適正配置及び技術向上に努めること、診療機能の向上を図る	・緩和ケアセンター構成員を継続し要件を満たしている	・今年度、緩和ケアセンター構成員は施設の人事都合により減少したが、継続して要件を満たしている。
		(エ) 県民及び医療・福祉従事者が緩和ケアの意義やがんと診断された時からの緩和ケアの必要性について正しく知り、治療方針や療養の選択肢として理解を深めることができるよう、情報提供及び普及啓発を行う	・患者と家族向けのリーフレット配布は250部/年となっている。	・患者から緩和ケア介入希望が出せるように「苦痛のスクリーニングシート」を自己投函式とすることを検討している。
■地域医療提供体制の構築	イ 在宅医療・介護サービス提供体制の構築	(イ) 緩和ケアスタッフと専門科スタッフの連携体制を強化するとともに、適切な時期に在宅緩和ケアを提案できるコーディネーターの養成に努める	・共通の看護管理者の配置を行い、当院地域医療連携室と、がん看護外来・緩和ケアチームとの協働強化を図った。 ・地域医療連携室のマンパワー強化(退院調整看護師実働2名→3名・MSW実働5名→7名)を図り、連携構築を推進した。	緩和ケアチームの定例の会議に、連携室からも参加を継続し、緩和ケア移行シートの利用や、地域機関等との連携に関する情報共有を図る
		(エ) 退院時カンファレンスを在宅医を含めた在宅医療スタッフが出席可能な時間帯に設定するよう努める 在宅緩和ケア連携クリニカルパスの普及・活用のため必要な対策を講じる	・外来患者に対し、在宅緩和ケア移行シートの試行中。今後の正式運用に向け、地域医療連携室・看護師・緩和ケアチームにて協議中。	緩和ケア移行シートの効果を検証すると共に、院内での利用拡大を図る
■がん登録の推進	イ 院内がん登録の推進	(イ) 各取組み事例を県内医療機関に情報提供するとともに、がん登録に対する技術支援を互いに行う	・第8回高知県がん登録研修会:平成27年6月27日開催 ・第9回高知県がん登録研修会(第1回全国がん登録セミナー):平成28年2月7日開催 ・第8回がん登録部会:平成27年10月30日開催 ・第9回がん登録部会:平成28年3月9日開催	・第2回院内がん登録スキルアップ研修会:平成28年7月9日開催 ・第3回院内がん登録スキルアップ研修会:平成29年2月4日開催予定 ・第2回全国がん登録研修会:平成28年5月22日開催 ・第3回全国がん登録研修会:平成28年11月13日開催 ・第10回がん登録部会:平成29年2月開催予定 ・第11回がん登録部会:平成29年3月開催予定 ・高知県院内がん登録データ集計(2013年～2015年)作業中

施設名 高知大学医学部附属病院

■教育機関における取組

	取り組む施策	取組項目	平成27年度の実績	平成28年度の実績(計画含む)
■がん医療水準の向上	イ がん診療に携わる人材育成	(イ) 拠点病院等におけるがん医療体制をさらに充実するため、「中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム」によるがんに関する専門の医療従事者の養成を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院生確保のため、大学院説明会を開催(6月、11月:がんプロコース入学者1名) ・がんプロ国際セミナーを開催(7月、1月:参加者延べ51名) ・インテンシブコース集中セミナー(多職種によるワークショップ)を県内3会場で開催(7月、8月、11月:参加者延べ108名)、在宅がん医療講演会を開催(2月:参加者51名) ・がん看護ミーティングを実施し、事例報告、情報共有を行い、実践能力の向上に努めた。 ・中堅看護職員実務研修がん中期研修を本学で開催を行った。参加者は10名で、当院のCNS、CNも講師を担当し、教育的な役割を果たした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院説明会の開催(6月、11月) ・がんプロ国際セミナー(7月、1月) ・インテンシブコース集中セミナー(8月)の開催および在宅がん医療講演会(1月~2月)の開催予定 ・在宅緩和ケアをテーマに医療従事者対象の講演会(8月)を開催した。 ・がん看護領域に関連する専門職間で実践報告、学会発表を行い、互いに看護の質向上ができるように取り組んでいる。 ・がん治療センターや看護部の資格支援を利用し、学会や研修参加を行い、自己研鑽に努めている。
		(エ) がん看護領域に関連する専門看護師や認定看護師の質やスキル向上を図る		

第2期 高知県がん対策推進計画 <施策の推進状況について>

別紙

■高知がん診療連携協議会における取組

	取り組む施策	取組項目	平成27年度の実績	平成28年度の実績状況(計画含む)
■ がん 医療 水準 の 向上	ウ 医療連携体制の整備	(ア) 構成委員と連携して、現在整備されている地域連携クリニカルパスの普及を促進する	<ul style="list-style-type: none"> ・県下の医療機関に対して、現在整備されている地域連携クリニカルパスを紹介し、連携医療機関への参加意思を確認した。 ・情報提供・相談支援部会を運営した。 	平成28年7月1日現在の連携医療機関数 胃がん……78 大腸がん……75 肺がん……58 子宮体がん……25 肝がん……66 前立腺がん……50 <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き本年度も情報提供・相談支援部会を運営した。 ・緩和ケア部会を設置した。
■ がん 進 登 録 の 推	イ 院内がん登録の推進	(ウ) 院内がん登録を推進するためには、がん登録の実務を担う職員の育成・確保が必要であることから、高知がん診療連携協議会等において、実務者の情報共有及び研修会を実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・第8回高知県がん登録研修会：平成27年6月27日開催 ・第9回高知県がん登録研修会(第1回全国がん登録セミナー)：平成28年2月7日開催 ・第8回がん登録部会：平成27年10月30日開催 ・第9回がん登録部会：平成28年3月9日開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回院内がん登録スキルアップ研修会：平成28年7月9日開催 ・第3回院内がん登録スキルアップ研修会：平成29年2月4日開催予定 ・第10回がん登録部会：平成29年2月開催予定 ・第11回がん登録部会：平成29年3月開催予定 ・高知県院内がん登録データ集計(2013年～2015年)作業中

第2期 高知県がん対策推進計画 < 施策の推進状況について >

別紙

■地域がん診療連携拠点病院における取組

施設名：高知県・高知市病院企業団立高知医療センター

	取り組む施策	取組項目	平成27年度の実績	平成28年度の実績(計画含む)
■ がん 医療 水準 の 向 上	ア 拠点病院等の機能充実	(イ) 手術療法、放射線療法、化学療法、緩和ケア、口腔ケア等がん医療に専門的に関わる医療従事者の確保・育成に努める	医療従事者研修及び公開講座・特別講演会を開催した。 公開講座 ① 7月25日(土) ゆずはら・夢・未来館 大ホール 参加者87名 ② 11月1日(日) 高知会館 2階「白鳳」 参加者77名 ③ 11月28日(土) 安芸商工会館 2Fホール 参加者21名 ④ 2月27日(土) サウスブリーズホテル 2階「アニエス」 参加者81名 がん患者の退院支援・在宅療養支援コース 1名	医療従事者研修及び公開講座・特別講演会(4回予定)を開催する。 第1回は7月30日(土)にゆずはら・夢・未来館にて開催済み 参加者72名 第2回は10月29日(土)にちより街テラスにて開催予定 第3回は12月18日(日)に安芸商工会館にて開催予定 がん患者さんの症状スクリーニングを開始 6月-9月で131名に実施
		(ウ) 診療に携わる医療従事者に対する研修等を通じて、地域全体のがん医療水準の向上に努める		
		(オ) 手術療法、放射線療法、化学療法の各種医療チームを設置し、各職種間の専門性を活かし、医療従事者間の連携と補完を重視した多職種でのチーム医療を推進する		
		(カ) 各種がん治療の副作用・合併症の予防や軽減など患者の更なる生活の質の向上を目指し、医科歯科連携による口腔ケアの推進をはじめ、食事療法などによる栄養管理やリハビリテーションの推進など、職種間連携を推進する		
	イ がん診療に携わる人材育成	(ア) 専門的にがん治療を行う医師、歯科医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師等の医療従事者を確保・適正配置するため、研修の充実及び質の向上に努めるとともに、国立がん研究センターが実施する研修に職員を積極的に派遣し、人材育成に取り組み、医療従事者が協力して診療に当たることができる体制を整備する	国立がん研究センター主催研修に参加した。 相談員研修会(3) 1名 相談員指導者研修 1名 相談員指導者フォローアップ研修 1名 がん放射線療法看護コース 1名 がん化学療法看護コース 1名 がん患者の退院支援・在宅療養支援コース 1名	国立がん研究センター主催の研修会への参加を予定。 以下、実施分 指導者等スキルアップ研修 1名 がん化学療法看護コース 1名 がん看護せん妄ケアコース 1名 がんのリハビリテーション研修 4名
		(ウ) 患者及び家族に最も近い職種として医療現場での生活支援にも関わる看護領域については、外来や病棟等でのがん看護体制の更なる強化を図るために、専門看護師や認定看護師の配置を促進する		
		(オ) がん医療従事医師のコミュニケーション技術の向上を図る		
	ウ 医療連携体制の整備	(イ) 拠点病院を中心として、緩和ケア病棟、緩和ケア外来、緩和ケアチーム、在宅療養支援診療所・在宅療養支援病院等との相互支援や情報の共有を進めることにより、地域ごとの連携強化を図る	他施設との地域連携カンファレンスを実施した。	他施設への訪問と地域連携カンファレンスを予定。
	エ セカンドオピニオン体制の整備	(ア) 患者が当たり前にセカンドオピニオンを受けられよう体制を整備する	セカンドオピニオン外来を設けている。	セカンドオピニオン外来の充実を図る。
		(イ) セカンドオピニオンの活用を促進するため、患者や家族への普及啓発を図る		
オ 小児がん対策	(ア) 小児がん拠点病院との役割分担及び連携を進め、小児がん対策を推進する			
	(イ) 患児が成長発達する時期を可能な限り慣れ親しんだ地域に留まり、他の子どもたちと、同じ生活・教育環境の中で医療や支援を受けられるような環境を整備する			
	(ウ) 小児がん経験者が安心して暮らせるよう、地域の中で患者とその家族の不安や治療による合併症、二次がんに対応できる長期フォローアップ体制とともに小児がん経験者の自立に向けた心理社会的な支援について検討する			

■地域がん診療連携拠点病院における取組

施設名：高知県・高知市病院企業団立高知医療センター

	取り組む施策	取組項目	平成27年度の実績	平成28年度の実績(計画含む)
■がん患者等への支援	ア がん相談体制の整備・充実	(ア) 相談支援センター等の全相談員に国立がん研究センターが実施する相談員研修を受講させるなどして相談員の相談支援技術の向上を図るとともに、相談者のニーズに応じた相談支援ができるよう相談支援センターの相談機能の充実・強化に努める 拠点病院等の相談支援センター業務の均一化を図る	相談件数1,255件(面談820件、電話423件、その他12件) 国立がん研究センター認定がん専門相談員に認定。(1名)(高知県で唯一)	相談員の研修会への参加を支援 相談支援センターの充実を図る 4~9月 相談件数669件(面談434件、電話233件、その他2件)
		(イ) 各相談支援センター等に寄せられる相談内容の共有や協力体制の構築及び相談者からのフィードバック等を通じてがん患者や家族の立場に立った相談対応に努める。	日本病態栄養学会認定がん病態栄養専門管理栄養士に認定。(3名)	
		(ウ) 患者に診断内容等を説明する際は、冊子や視覚教材などの分かりやすい教材の活用や、看護師やソーシャルワーカーの同席など患者やその家族が十分理解できる環境を整備する		
	イ 相談窓口に関わる人材育成	(ア) 相談支援センターと院内診療科との連携を図り、特に精神心理的苦痛を持つ患者とその家族に対して専門家による診療を適切な時期に提供できるよう努める		
	ウ がんに関する情報提供の充実	(ア) がんに関する治療や正しい知識等の情報をインターネットやパンフレット等様々な手段を通してがん患者及びその家族が入手できるようにする。緩和ケアをはじめとするがん医療を身近なものと感じてもらうように努める。	国立がん研究センターがん対策情報センター発行の冊子等を外来や相談支援センター等に配置し、公開講座等でも配布した。がんセンターのホームページを設け、診療実績等の情報を提供し、地域連携パスを公開している。	国立がん研究センターがん対策情報センター発行の冊子等を外来や相談支援センター等に配置し、公開講座等でも配布した。がんセンターのホームページを設け、診療実績等の情報を提供し、地域連携パスを公開している。
		(イ) 地域の医療機関等との連携体制の状況に関する情報を提供する		
(ウ) 診療実績、専門的にがん診療を行う医師、相談窓口に関する情報等を、院内掲示するとともに、ホームページ等がん患者・家族等に分かりやすい形で提供できるよう努める				
■緩和ケアの推進	ア 医療従事者の育成	(ア) すべてのがん診療に携わる医師及び医療従事者が緩和ケアについての基本的な知識を習得できるよう国の指針に基づいた研修を引き続き実施する	緩和ケア研修会 8月29日、30日開催 研修会修了者 9名 12月5日、12月6日 研修会修了者 16名	緩和ケア研修会 9月24日、9月25日開催 研修会修了者 16名 12月3日、4日 開催(現在受講者募集中) 緩和ケア研修会の未受講者に対して受講を強く呼びかける
		(ウ) 緩和ケアに従事する関係者間での相互理解と連携を進めることにより、緩和ケアチームなどが提供する専門的な緩和ケアを患者及び家族が受けやすくするとともに、緩和ケアの質の向上を図る	緩和ケアカンファレンスの開催(週1回)	緩和ケアカンファレンスの開催(週1回)
イ 緩和ケア実施体制の充実	(ア) 専門的な緩和ケアの質の向上のため、緩和ケアチームや緩和ケア外来への専門職の適正配置及び技術向上に努めることで、診療機能の向上を図る			
	(エ) 県民及び医療・福祉従事者が緩和ケアの意義やがんと診断された時からの緩和ケアの必要性について正しく知り、治療方針や療養の選択肢として理解を深めることができるよう、情報提供及び普及啓発を行う		緩和ケア普及啓発ポスター(日本緩和医療学会)の院内掲示	
■地域医療提供体制の構築	イ 在宅医療・介護サービス提供体制の構築	(イ) 緩和ケアスタッフと専門科スタッフの連携体制を強化するとともに、適切な時期に在宅緩和ケアを提案できるコーディネーターの養成に努める		
		(エ) 退院時カンファレンスを在宅医を含めた在宅医療スタッフが出席可能な時間帯に設定するよう努める 在宅緩和ケア連携クリニックの普及・活用のため必要な対策を講じる		
録■のがん登録の推進	イ 院内がん登録の推進	(イ) 各取組み事例を県内医療機関に情報提供するとともに、がん登録に対する技術支援を互いに行う		

第2期 高知県がん対策推進計画 < 施策の推進状況について >

別紙

■ 地域がん診療連携拠点病院における取組

施設名: 高知県立幡多けんみん病院

	取り組む施策	取組項目	平成27年度の実績	平成28年度の実績(計画含む)
■ がん医療水準の向上	ア 拠点病院等の機能充実	(イ) 手術療法、放射線療法、化学療法、緩和ケア、口腔ケア等がん医療に専門的に関わる医療従事者の確保・育成に努める	○ キャンサーボード12回/年 381名参加(医師86名・看護師173名・薬剤師30名・放射線技師8名・管理栄養士8名・理学療法士14名・社会福祉士11名・臨床検査技師9名・事務42名)	○ キャンサーボード12回/年
		(ウ) 地域のがん診療を行っている医療機関に対する診療支援や地域のがん診療に携わる医療従事者に対する研修等を通じて、地域全体のがん医療水準の向上に努める	○ がんの勉強会開催10回/年 482名参加(院内職員395名、地域の医療・介護従事者87名) ○ 幡多ふれあい医療公開講座 がんに関する講演 2演題/年(計194名参加)	○ がんの勉強会開催10回/年 ○ 幡多ふれあい医療公開講座 がんに関する講演 2~3演題/年
		(オ) 手術療法、放射線療法、化学療法の各種医療チームを設置し、各職種の専門性を活かし、医療従事者間の連携と補完を重視した多職種でのチーム医療を推進する	○ 研修会 がんの勉強会: 病期に応じたがんのリハビリテーション(8/14) NST地域連携連絡会研修会: がん患者の口腔トラブル(8/18) (講師: 在宅療養支援歯科診療所歯科医師)	○ 研修会 幡多ふれあい医療公開講座「口から食べられる喜び」(4/17) 講師: 島田歯科 島田力 参加者: 101名
		(カ) 各種がん治療の副作用・合併症の予防や軽減など患者の更なる生活の質の向上を目指し、医科歯科連携による口腔ケアの推進をはじめ、食事療法などによる栄養管理やリハビリテーションの推進など、職種間連携を推進する	○ がん治療における医科歯科連携112名/年 ○ がんの栄養 栄養科介入数552名/年 ○ がんのリハビリテーション 患者数96名/年	○ がん治療における医科歯科連携の促進 ○ がん周術期における医科歯科連携の開始(平成28年9月1日より) ○ がんのリハビリテーション 今年度の活動計画①術前からのリハビリ介入②乳がん患者へのリハビリ介入③緩和ケアへの多職種の介入(ポジショニング・移乗方法等)④リハビリ提供量を増やす を立案し、①②について重点的に取り組んでいる。
	イ がん診療に携わる人材育成	(ア) 専門的にがん治療を行う医師、歯科医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師等の医療従事者を確保・適正配置するため、研修の充実及び質の向上に努めるとともに、国立がん研究センターが実施する研修に職員を積極的に派遣し、人材育成に取り組み、医療従事者が協力して診療に当たることができる体制を整備する	○ がん看護専門分野(指導者)講義研修: 7名参加 (主催: 国立がん研究センター) がん看護研修企画・指導者研修 1名 がん化学療法看護コース 1名 緩和ケアコース 2名 がん患者の退院支援・在宅療養コース 1名 がん看護せん妄コース 2名	○ がん看護専門分野(指導者)講義研修: 計5名参加 (主催: 国立がん研究センター) がん化学療法看護コース 緩和ケアコース がん患者の退院支援・在宅療養コース がん看護せん妄ケアコース がん放射線療法看護コース
		(ウ) 患者及び家族に最も近い職種として医療現場での生活支援にも関わる看護領域については、外来や病棟等でのがん看護体制の更なる強化を図るために、専門看護師や認定看護師の配置を促進する	○ 高知県がん専門相談員研修会 2名 ○ がん医療に携わる看護師に対する指導者研修 1名 ○ がん看護インテンシブ I 研修 1名 ○ 緩和ケア認定看護師2名、がん化学療法看護認定看護師2名、皮膚・排泄ケア認定看護師1名を配置 ○ がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の実施	○ 高知県がん専門相談員研修会 2名 ○ がんのリハビリテーション研修会 6名
		(オ) がん医療従事医師のコミュニケーション技術の向上を図る	○ 緩和ケア認定看護師2名、がん化学療法看護認定看護師2名、皮膚・排泄ケア認定看護師1名を配置 ○ がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の実施	○ 左記継続
	ウ 医療連携体制の整備	(イ) 拠点病院を中心として、緩和ケア病棟、緩和ケア外来、緩和ケアチーム、在宅療養支援診療所・在宅療養支援病院等との相互支援や情報の共有を進めることにより、地域ごとの連携強化を図る	○ 研修会の開催(がんの勉強会、緩和ケア勉強会) ○ 検討会の開催(消化器疾患研究会、緩和ケアカンファレンス) ○ タイムリーな症例カンファレンス(医療機関スタッフと訪問看護師・ケアマネ等)	○ 研修会の開催(がんの勉強会、緩和ケア勉強会) ○ 検討会の開催(消化器疾患研究会、緩和ケアカンファレンス) ○ タイムリーな症例カンファレンス(医療機関スタッフと訪問看護師・ケアマネ等)
	エ セカンドオピニオン体制の整備	(ア) 患者が当たり前前にセカンドオピニオンを受けられよう体制を整備する	○ 病院のホームページに掲載 ○ がん患者会やがんの学び舎での啓蒙 ○ 外来・総合受付に掲示	○ 左記継続
		(イ) セカンドオピニオンの活用を促進するため、患者や家族への普及啓発を図る		
オ 小児がん対策	(ア) 小児がん拠点病院との役割分担及び連携を進め、小児がん対策を推進する	○ 当院小児科医師により高知大学との緊密な関係が構築されており、診療について連絡を取り合っている。	○ 左記継続	
	(イ) 患児が成長発達する時期を可能な限り慣れ親しんだ地域に留まり、他の子どもたちと、同じ生活・教育環境の中で医療や支援を受けられるような環境を整備する			
	(ウ) 小児がん経験者が安心して暮らせるよう、地域の中で患者とその家族の不安や治療による合併症、二次がんに対応できる長期フォローアップ体制とともに小児がん経験者の自立に向けた心理社会的な支援について検討する			

■地域がん診療連携拠点病院における取組

施設名：高知県立幡多けんみん病院

	取り組む施策	取組項目	平成27年度の取組実績	平成28年度の取組状況(計画含む)
■がん患者等への支援	ア がん相談体制の整備・充実	相談支援センター等の全相談員に国立がん研究センターが実施する相談員研修を受講させるなどして相談員の相談支援技術の向上を図るとともに、相談者のニーズに応じた相談支援ができるよう相談支援センターの相談機能の充実・強化に努める 拠点病院等の相談支援センター業務の均一化を図る	○ がん相談支援センター相談員指導者研修への参加 ○ 高知県がん専門相談員研修会への参加 ○ 相談内容に応じ、関係職種との情報共有、支援内容の検討を行う	○ 社会福祉士1名が相談員基礎研修(1)(2)(3)を受講 ○ 社会福祉士1名が相談員基礎研修(1)(2)を受講 ○ 左記研修等への参加を通じ、相談支援技術の向上を図る ○ 左記継続
		(イ) 各相談支援センター等に寄せられる相談内容の共有や協力体制の構築及び相談者からのフィードバック等を通じてがん患者や家族の立場に立った相談対応に努める。	○ 外来、各病棟においてICの際、看護師が同席し、患者・家族の病気の受け止め方などを確認するよう取り組み、月に1回開催がん診療委員会にて取り組み状況を報告し改善を図った。	○ 左記継続
		(ウ) 患者に診断内容等を説明する際は、冊子や視覚教材などの分かりやすい教材の活用や、看護師やソーシャルワーカーの同席など患者やその家族が十分理解できる環境を整備する	○ 患者・家族の精神状態に関しては、医師・看護師等の関係スタッフと共有し、必要に応じ適切な診療が受けられるよう支援する	○ 左記継続
	イ 相談窓口に関わる人材育成	(ア) 相談支援センターと院内診療科との連携を図り、特に精神心理的苦痛を持つ患者とその家族に対して専門家による診療を適切な時期に提供できるよう努める	○ 患者・家族の精神状態に関しては、医師・看護師等の関係スタッフと共有し、必要に応じ適切な診療が受けられるよう支援する	○ 左記継続
	ウ がんに関する情報提供の充実	(ア) がんに関する治療や正しい知識等の情報をインターネットやパンフレット等様々な手段を通してがん患者及びその家族が入手できるようにする。緩和ケアをはじめとするがん医療を身近なものと感じてもらえるように努める。 (イ) 地域の医療機関等との連携体制の状況に関する情報を提供する (ウ) 診療実績、専門的にがん診療を行う医師、相談窓口に関する情報等を、院内掲示するとともに、ホームページ等がん患者・家族等に分かりやすい形で提供できるよう努める	○ 総合案内へ各種がんの小冊子を無料配布 ○ がんの図書館の整備(がん関連図書を350冊程置く) ○ がん相談支援センターの案内を外来フロアに掲示 ○ 医科歯科連携 ○ 胃がん・大腸がんの地域連携パス ○ がんの学び舎 7回/年 ○ がんの訪問授業 2回/年 ○ 診療実績、専門的にがん診療を行う医師、相談窓口に関する情報等を、ホームページに掲載	○ がんの小冊子の選定 ○ 患者の希望を取り入れた(がんサロンや患者会で確認)図書の選定 ○ 「入院案内のしおり」にがん相談支援センターについて明記 ○ 医科歯科連携 ○ 胃がん・大腸がんの地域連携パス ○ がんの学び舎 8回/年 ○ がんの訪問授業 3回/年 ○ 当院ホームページのさらなる充実を図る
■緩和ケアの推進	ア 医療従事者の育成	(ア) すべてのがん診療に携わる医師及び医療従事者が緩和ケアについての基本的な知識を習得できるよう国の指針に基づいた研修を引き続き実施する	○ がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会開催(定員27名) 平成27年11月14日 参加者16名(医師16名) 平成27年11月15日 参加者13名(医師13名)	○ がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会開催予定(定員27名) 平成28年12月10日 平成28年12月11日
		(ウ) 緩和ケアに従事する関係者間での相互理解と連携を進めることにより、緩和ケアチームなどが提供する専門的な緩和ケアを患者及び家族が受けやすくするとともに、緩和ケアの質の向上を図る	認定看護師が中心となって実施 ○ 院内での教育活動 ①緩和ケア勉強会開催1回/年 参加者(院内職員名、地域の医療・介護従事者名) ②緩和ケアカンファレンス開催6回/年 参加者(院内職員名、地域の医療・介護従事者名) ③終末期看護:対象者 新人看護職員 ④院内各分野の認定看護師協働による研修 ○ 院外での教育活動 ①がん看護インテンシブコース I の講演 ②多職種で考える地域医療連携緩和ケア研修会 ③エンゼルケアについて:対象者 松谷病院職員 ④緩和ケア・終末期看護:対象者 幡多看護専門学校学生	○ 院内での教育活動 ①緩和ケアカンファレンス6回/年 ②ミニ勉強会(診断時からの緩和ケア、コミュニケーション、意思決定支援、エンゼルケア)を緩和ケアリンクナースを対象に実施 ③終末期看護:対象者 新人看護職員 ④院内各分野の認定看護師協働による研修 ○ 院外での教育活動 ①がん看護インテンシブコース I の講演 ②緩和ケア・終末期看護:対象者 幡多看護専門学校学生
	イ 緩和ケア実施体制の充実	(ア) 専門的な緩和ケアの質の向上のため、緩和ケアチームや緩和ケア外来への専門職の適正配置及び技術向上に努めることで、診療機能の向上を図る (エ) 県民及び医療・福祉従事者が緩和ケアの意義やがんと診断された時からの緩和ケアの必要性について正しく知り、治療方針や療養の選択肢として理解を深めることができるよう、情報提供及び普及啓発を行う	○ PCT専従看護師は緩和ケア外来や外来治療室(化学療法室)へ来られる患者・家族へ関わり、スタッフ間での情報共有と対象へ必要なケアを行う。 ○ がんの学び舎で緩和ケアについて講演した ○ 院内・地域の医療従事者を対象とした勉強会やカンファレンスの開催(上記ウ) ○ 上記ア(ア)と同様	○ 左記継続 ○ 左記継続 ○ 当院ホームページの充実

■地域がん診療連携拠点病院における取組

施設名：高知県立幡多けんみん病院

	取り組む施策	取組項目	平成27年度の実績	平成28年度の実績(計画含む)
<p>■地域の医療・介護サービスの提供体制</p>	<p>イ 在宅医療・介護サービス提供体制の構築</p>	<p>(イ) 緩和ケアスタッフと専門科スタッフの連携体制を強化するとともに、適切な時期に在宅緩和ケアを提案できるコーディネーターの養成に努める</p>	<p>○ 緩和ケアリンクナースの会を立ち上げ、病棟看護師7名(うち1名緩和ケア認定看護師)、がん化学療法看護認定看護師、PCT専従看護師を任命 症状緩和や意思決定支援における知識や技術の向上、部署の課題に取り組んだ。 ○ 退院支援担当者会を立ち上げ、退院支援看護師として病棟看護師7名、外来看護師1名、緩和ケア認定看護師1名を任命 勉強会や事例検討会を開催し、在宅療養支援についての知識の習得を図った。 また、訪問看護ステーション、地域包括支援センターへ実習させていただいた。</p>	<p>○ 上記ア(ウ)同様 ○ 入退院支援センター開設し、退院支援に関わる看護師を4名増員した。</p>
		<p>(エ) 退院時カンファレンスを在宅医を含めた在宅医療スタッフが出席可能な時間帯に設定するよう努める 在宅緩和ケア連携クリニカルパスの普及・活用のため必要な対策を講じる</p>	<p>○ 退院前カンファレンスの日程調整は、患者・家族、在宅側スタッフ、病院側スタッフが出来るだけ多く参加できるよう日程調整を行った ○ 退院前カンファレンス開催件数(がん患者対象)12件 ○ 在宅緩和ケア移行シートの内容の検討</p>	<p>○ 左記継続 ○ 在宅緩和ケア移行シートの周知と活用</p>
<p>録■の推進</p>	<p>イ 院内がん登録の推進</p>	<p>(イ) 各取組み事例を県内医療機関に情報提供するとともに、がん登録に対する技術支援を互いに行う</p>	<p>○ 高知県がん登録研修会の企画(2回/年)</p>	<p>○ 高知県がん登録研修会の企画(2回/年) ○ 院内がん登録スキルアップ研修会(2回/年) ○ 高知県院内がん登録集計(2013~2015年)の冊子の作成</p>

第2期 高知県がん対策推進計画 < 施策の推進状況について >

別紙

■がん診療連携推進病院における取組

施設名: 高知赤十字病院

	取り組む施策	取組項目	平成27年度の実績	平成28年度の実績(計画含む)
■がん医療水準の向上	ア 拠点病院等の機能充実	(イ) 手術療法、放射線療法、化学療法、緩和ケア、口腔ケア等がん医療に専門的に関わる医療従事者の確保・育成に努める	当院を含め地域の医療従事者を対象に、がんに関する研修を実施(5/13がん化学療法に関する研修、8/14がんコミュニケーションに関する研修、9/18がん放射線治療に関する研修、10/26がん登録・心理に関する研修会、2/6肺がん・緩和ケアに関する研修会、3/4乳がん・肺がんに関する研修会、計6回、324名参加) 地域の医師会と共催でがんに関する生涯教育講演会を開催(8/18高岡郡医師会、11/18土佐長岡郡医師会、12/15吾川郡医師会、2/16安芸郡医師会、計4回、128名参加) 緩和ケア研修会計28名参加 キャンサーボード毎月開催、計378名参加 日本がん治療認定医の資格取得の推進継続 KM-CART4/16～開始	がんに関する研修を実施(6/9医科歯科連携に関する研修、7/13がん化学療法に関する研修、8/19コミュニケーションに関する研修、9/14心理・がん登録に関する研修、10/25在宅緩和ケア合同事例検討会、計5回、10月までに155名参加) 地域の医師会と共催でがんに関する生涯教育講演会を開催(9/6高岡郡医師会、11/2土佐長岡郡医師会、12/6吾川郡医師会、2月安芸郡医師会、計4回、9月までに50名参加) キャンサーボード毎月開催、9月までに211名参加 日本がん治療認定医の資格取得の推進継続 がん周術期における医科歯科連携の推進
		(ウ) 地域のがん診療を行っている医療機関に対する診療支援や地域のがん診療に携わる医療従事者に対する研修等を通じて、地域全体のがん医療水準の向上に努める		
		(オ) 手術療法、放射線療法、化学療法の各種医療チームを設置し、各職種専門性を活かし、医療従事者間の連携と補完を重視した多職種でのチーム医療を推進する		
		(カ) 各種がん治療の副作用・合併症の予防や軽減など患者の更なる生活の質の向上を目指し、医科歯科連携による口腔ケアの推進をはじめ、食事療法などによる栄養管理やリハビリテーションの推進など、職種間連携を推進する		
	イ がん診療に携わる人材育成	(ア) 専門的にがん治療を行う医師、歯科医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師等の医療従事者を確保・適正配置するため、研修の充実及び質の向上に努めるとともに、国立がん研究センターが実施する研修に職員を積極的に派遣し、人材育成に取り組み、医療従事者が協力して診療に当たることができる体制を整備する	高知県がん中期研修に看護師1名参加 高知県在宅調整従事者研修に看護師2名参加 8/14コミュニケーション研修実施	8/19コミュニケーション研修実施
		(ウ) 患者及び家族に最も近い職種として医療現場での生活支援にも関わる看護領域については、外来や病棟等でのがん看護体制の更なる強化を図るために、専門看護師や認定看護師の配置を促進する		
		(オ) がん医療従事医師のコミュニケーション技術の向上を図る		
	ウ 医療連携体制の整備	(イ) 拠点病院を中心として、緩和ケア病棟、緩和ケア外来、緩和ケアチーム、在宅療養支援診療所・在宅療養支援病院等との相互支援や情報の共有を進めることにより、地域ごとの連携強化を図る	がん地域連携パスの活用促進、連携施設数増加 前立腺がん診療連携手帳を作成し運用開始	10/25在宅側と緩和ケア合同事例検討会開催 がん地域連携パスの活用促進、連携施設数増加 乳がん診療連携手帳作成予定
	エ セカンドオピニオン体制の整備	(ア) 患者が当たり前前にセカンドオピニオンを受けられよう体制を整備する	セカンドオピニオンを安心して受けることができるようポスターを作成し、院内に掲示	継続
		(イ) セカンドオピニオンの活用を促進するため、患者や家族への普及啓発を図る		
オ 小児がん対策	(ア) 小児がん拠点病院との役割分担及び連携を進め、小児がん対策を推進する	小児がん経験者が安心して暮らせるよう、地域の中で患者とその家族の不安や治療による合併症、二次がんに対応できる長期フォローアップ体制とともに小児がん経験者の自立に向けた心理社会的な支援について検討する		
	(イ) 患児が成長発達する時期を可能な限り慣れ親しんだ地域に留まり、他の子どもたちと、同じ生活・教育環境の中で医療や支援を受けられるような環境を整備する			
	(ウ) 小児がん経験者が安心して暮らせるよう、地域の中で患者とその家族の不安や治療による合併症、二次がんに対応できる長期フォローアップ体制とともに小児がん経験者の自立に向けた心理社会的な支援について検討する			

■がん診療連携推進病院における取組

施設名：高知赤十字病院

	取り組む施策	取組項目	平成27年度の実績	平成28年度の実績(計画含む)
■がん患者等への支援	ア がん相談体制の整備・充実	相談支援センター等の全相談員に国立がん研究センターが実施する相談員研修を受講させるなどして相談員の相談支援技術の向上を図るとともに、相談者のニーズに応じた相談支援ができるよう相談支援センターの相談機能の充実・強化に努める 拠点病院等の相談支援センター業務の均一化を図る	相談員継続研修に看護師1名参加 情報提供・相談支援部会への参加継続 県内がん相談員研修に参加	情報提供・相談支援部会への参加継続 県内がん相談員研修に参加継続 ハローワークと連携し就労相談に対応
		各相談支援センター等に寄せられる相談内容の共有や協力体制の構築及び相談者からのフィードバック等を通じてがん患者や家族の立場に立った相談対応に努める。		
		患者に診断内容等を説明する際は、冊子や視覚教材などの分かりやすい教材の活用や、看護師やソーシャルワーカーの同席など患者やその家族が十分理解できる環境を整備する	看護師の同席を促進(特に認定看護師が同席しがん患者指導管理料算定)、必要時はがん看護専門外来につなげている。	継続
	イ 相談窓口に関わる人材育成	相談支援センターと院内診療科との連携を図り、特に精神心理的苦痛を持つ患者とその家族に対して専門家による診療を適切な時期に提供できるよう努める	相談支援センター、がんサロンからも必要性があると判断した患者には緩和ケア外来、臨床心理士によるカウンセリングを受診するように連携	継続
	ウ がんに関する情報提供の充実	(ア) がんに関する治療や正しい知識等の情報をインターネットやパンフレット等様々な手段を通してがん患者及びその家族が入手できるようにする。緩和ケアをはじめとするがん医療を身近なものと感じてもらえるように努める。	ホームページの充実(がん診療についても情報提供) がん医療公開講座を実施(6/6佐川町、2/28高知市、計197名参加) がんサロン内で毎月多職種によるミニ勉強会実施 冊子・図書配置 相談支援センターの広報継続	がん医療公開講座を実施(7/2佐川町、65名参加、12/17予定高知市) 高新文化教室と共催でがんに関する講座を実施(8/27高知市、62名参加、2/11予定室戸市) がんサロン内で毎月多職種によるミニ勉強会実施 相談支援センターの広報継続
(イ) 地域の医療機関等との連携体制の状況に関する情報を提供する				
(ウ) 診療実績、専門的にがん診療を行う医師、相談窓口に関する情報等を、院内掲示するとともに、ホームページ等がん患者・家族等に分かりやすい形で提供できるよう努める				
■緩和ケアの推進	ア 医療従事者の育成	緩和ケアに従事する関係者間での相互理解と連携を進めることにより、緩和ケアチームなどが提供する専門的な緩和ケアを患者及び家族が受けやすくするとともに、緩和ケアの質の向上を図る	リンクナースで検討し苦痛のスクリーニングの活用促進	継続して苦痛のスクリーニングの活用促進
	イ 緩和ケア実施体制の充実	(ア) 専門的な緩和ケアの質の向上のため、緩和ケアチームや緩和ケア外来への専門職の適正配置及び技術向上に努めることで、診療機能の向上を図る	緩和ケアチームに新たに精神救急の医師を配置。	精神救急の医師は退職し非常勤に変更。専従看護師は専任に変更。
		(エ) 県民及び医療・福祉従事者が緩和ケアの意義やがんと診断された時からの緩和ケアの必要性について正しく知り、治療方針や療養の選択肢として理解を深めることができるよう、情報提供及び普及啓発を行う	地域住民に対しミニ講座で情報提供を行った。	ミニ講座継続 緩和ケア研修会の未受講者に対し参加の呼びかけを継続
■地域医療提供体制の構築	イ 在宅医療・介護サービス提供体制の構築	(イ) 緩和ケアスタッフと専門科スタッフの連携体制を強化するとともに、適切な時期に在宅緩和ケアを提案できるコーディネーターの養成に努める	在宅緩和ケア研修会に看護師・MSWの他、がん治療医、放射線技師も参加した。高知県在宅調整従事者研修に看護師2名参加	在宅緩和ケア研修会に多職種で参加を継続
		(エ) 退院時カンファレンスを在宅医を含めた在宅医療スタッフが出席可能な時間帯に設定するよう努める 在宅緩和ケア連携クリニカルパスの普及・活用のため必要な対策を講じる	退院時カンファレンスの日程調整は必要な職種が参加できるよう行った。 在宅緩和ケア移行シートの院内への導入のための準備を行った。	退院時カンファレンスの日程調整は必要な職種が参加できるよう行っている。 在宅緩和ケア移行シートの使用開始

第2期 高知県がん対策推進計画 < 施策の推進状況について >

別紙

■がん診療連携推進病院における取組

施設名： 国立病院機構高知病院

	取り組む施策	取組項目	平成27年度の実績	平成28年度の実績(計画含む)
■がん医療水準の向上	ア 拠点病院等の機能充実	(イ) 手術療法、放射線療法、化学療法、緩和ケア、口腔ケア等がん医療に専門的に関わる医療従事者の確保・育成に努める	(イ)手術療法に携わる医師(17)名 化学療法に携わる医師(25)名 放射線療法に携わる医師 1名 化学療法認定看護師 1名 緩和ケアに携わる医師1名 薬剤師1名 がん性疼痛看護認定看護師 1名 緩和ケア認定看護師教育課程1名	(イ)手術療法に携わる医師(19)名 化学療法に携わる医師(29)名 放射線療法に携わる医師 1名 化学療法認定看護師 1名 化学療法認定教育課程 1名 緩和ケアに携わる医師1名 薬剤師1名 緩和ケア認定看護師 1名 がん性疼痛看護認定看護師 1名
		(ウ) 地域のがん診療を行っている医療機関に対する診療支援や地域のがん診療に携わる医療従事者に対する研修等を通じて、地域全体のがん医療水準の向上に努める	(ウ)病診連携フォーラムの開催(11回/年)	(ウ)病診連携フォーラム (11回/年)計画実施
		(オ) 手術療法、放射線療法、化学療法の各種医療チームを設置し、各職種の専門性を活かし、医療従事者間の連携と補完を重視した多職種でのチーム医療を推進する	(オ)各科カンファレンス実施	(オ)各科カンファレンス実施
		(カ) 各種がん治療の副作用・合併症の予防や軽減など患者の更なる生活の質の向上を目指し、医科歯科連携による口腔ケアの推進をはじめ、食事療法などによる栄養管理やリハビリテーションの推進など、職種間連携を推進する	(カ)がんリハビリテーション 件数 (51名 /年)	(カ)27年度医科歯科連携 件数 (23件 /9月末現在) がんリハビリテーション 件数(28名 /9月末現在)
	イ がん診療に携わる人材育成	(ア) 専門的にがん治療を行う医師、歯科医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師等の医療従事者を確保・適正配置するため、研修の充実及び質の向上に努めるとともに、国立がん研究センターが実施する研修に職員を積極的に派遣し、人材育成に取り組み、医療従事者が協力して診療に当たることができる体制を整備する	(ア)研修 化学療法研修 四国がんセンター 薬剤師受講 化学療法フォローアップ研修 国立看護大学校 看護師受講 緩和ケア認定看護師 静岡県立がんセンター 看護師受講	(ア)研修 がん患者退院調整従事者研修 静岡県立がんセンター 看護師受講 がん登録実務初級認定者研修 国立がん研究センター 診療情報管理士受講
		(ウ) 患者及び家族に最も近い職種として医療現場での生活支援にも関わる看護領域については、外来や病棟等でのがん看護体制の更なる強化を図るために、専門看護師や認定看護師の配置を促進する	(ウ)がん性疼痛看護認定看護師 1名 (病棟とがん相談) 化学療法認定看護師 1名 (外来) 皮膚排泄ケア認定看護師 1名 (外来)	(ウ)左記に加え 緩和ケア認定看護師 1名 皮膚排泄ケア認定看護師 1名活動開始 ※化学療法認定看護師教育課程 1名在席
		(オ) がん医療従事医師のコミュニケーション技術の向上を図る	(オ)緩和ケア研修会 修了した医師 (15)名	(オ)緩和ケア研修会 修了した医師 17名
	ウ 医療連携体制の整備	(イ) 拠点病院を中心として、緩和ケア病棟、緩和ケア外来、緩和ケアチーム、在宅療養支援診療所・在宅療養支援病院等との相互支援や情報の共有を進めることにより、地域ごとの連携強化を図る	高知県西部地区緩和ケア事例検討と連携の強化を目的としたカンファレンスを年3回持ち回りにて実施した。	高知県西部地区 緩和ケア事例検討会 28年度 1回目 かもだの診療所主催「自宅で残される子供と一緒に過ごす」70名 2回目 当院主催「治療継続しながら在宅移行した症例」11月22日開催予定
	エ セカンドオピニオン体制の整備	(ア) 患者が当たり前にセカンドオピニオンを受けられよう体制を整備する	がん相談支援センターにて月～金曜日問い合わせに対応している。 ホームページにおいても詳細に掲載している。	前年からの取組を継続していく。
		(イ) セカンドオピニオンの活用を促進するため、患者や家族への普及啓発を図る		
オ 小児がん対策	(ア) 小児がん拠点病院との役割分担及び連携を進め、小児がん対策を推進する	小児がんについては、拠点病院へ速やかに紹介を行っている。	前年からの取組を継続していく。	
	(イ) 患児が成長発達する時期を可能な限り慣れ親しんだ地域に留まり、他の子どもたちと、同じ生活・教育環境の中で医療や支援を受けられるような環境を整備する			
	(ウ) 小児がん経験者が安心して暮らせるよう、地域の中で患者とその家族の不安や治療による合併症、二次がんに対応できる長期フォローアップ体制とともに小児がん経験者の自立に向けた心理社会的な支援について検討する			

■がん診療連携推進病院における取組

施設名： 国立病院機構高知病院

	取り組む施策	取組項目	平成27年度の実績	平成28年度の実績(計画含む)	
■がん患者等への支援	ア がん相談体制の整備・充実	相談支援センター等の全相談員に国立がん研究センターが実施する相談員研修を受講させるなどして相談員の相談支援技術の向上を図るとともに、相談者のニーズに応じた相談支援ができるよう相談支援センターの相談機能の充実・強化に努める 拠点病院等の相談支援センター業務の均一化を図る	(ア)国立がんセンター相談員従事者研修1. 2修了者 1名 高知県 相談支援部会主催研修 2 1名 受講済み 高知県 相談支援部会 参加 (不定期 4回/年)	前年からの取り組みを継続する	
		(イ) 各相談支援センター等に寄せられる相談内容の共有や協力体制の構築及び相談者からのフィードバック等を通じてがん患者や家族の立場に立った相談対応に努める。	医師のICには必ず看護師が同席する(同席率90%以上)	左記に同じ	
		(ウ) 患者に診断内容等を説明する際は、冊子や視覚教材などの分かりやすい教材の活用や、看護師やソーシャルワーカーの同席など患者やその家族が十分理解できる環境を整備する	精神的苦痛に対しても早期より緩和ケアチームが介入するようにしている。チームで精神的な苦痛に対しツールを使い評価し、より専門的な治療を要する場合は速やかに専門家へ紹介するようにしている。	左記に同じ	
	イ 相談窓口に関わる人材育成	(ア) 相談支援センターと院内診療科との連携を図り、特に精神心理的苦痛を持つ患者とその家族に対して専門家による診療を適切な時期に提供できるよう努める	(ア)パンフレットの提示。がん相談窓口の提示。高知県がん相談ポスター提示。 (イ)当院広報誌 捕鯨船(4回/年)内で連携の情報を提示している。HP上でも明記している。	左記に同じ	
		ウ がんに関する情報提供の充実	(ア) がんに関する治療や正しい知識等の情報をインターネットやパンフレット等様々な手段を通してがん患者及びその家族が入手できるようにする。緩和ケアをはじめとするがん医療を身近なものと感じてもらうように努める。	(ウ)診療実績、専門医提示 がん相談窓口は1階フロアに提示また、HP上でも情報を公開している。	左記に同じ
			(イ) 地域の医療機関等との連携体制の状況に関する情報を提供する		
	(ウ) 診療実績、専門的にがん診療を行う医師、相談窓口に関する情報等を、院内掲示するとともに、ホームページ等がん患者・家族等に分かりやすい形で提供できるよう努める				
■緩和ケアの推進	ア 医療従事者の育成	緩和ケアに従事する関係者間での相互理解と連携を進めることにより、緩和ケアチームなどが提供する専門的な緩和ケアを患者及び家族が受けやすくするとともに、緩和ケアの質の向上を図る	(ウ)高知県在宅緩和ケア推進協議会 参加 MSW 1名 がん性疼痛看護認定看護師 1名 緩和ケア委員会 (5回/年)実施 緩和ケアリンクナース会 (11回/年)実施	(ウ)高知県在宅緩和ケア推進協議会 参加 MSW 1名 がん性疼痛看護認定看護師1名 今年度より緩和ケア認定看護師1名参加予定 緩和ケア委員会 (3回/9月末現在)実施 緩和ケアリンクナース会 (6回/9月末現在)実施	
	イ 緩和ケア実施体制の充実	(ア) 専門的な緩和ケアの質の向上のため、緩和ケアチームや緩和ケア外来への専門職の適正配置及び技術向上に努めることで、診療機能の向上を図る	(ア)緩和ケアチーム 身体的側面に対応する医師 1名 薬剤師 1名 がん性疼痛看護認定看護師1名 配置	(ア)左記に加え 緩和ケア認定看護師1名 チームに加入	
		(イ) 県民及び医療・福祉従事者が緩和ケアの意義やがんと診断された時からの緩和ケアの必要性について正しく知り、治療方針や療養の選択肢として理解を深めることができるよう、情報提供及び普及啓発を行う	(イ)がん相談窓口を一般に向けても広げ対応している。	(イ)がん相談窓口を一般にも広げ対応している。	
■地域医療提供体制の構築	イ 在宅医療・介護サービス提供体制の構築	(イ) 緩和ケアスタッフと専門科スタッフの連携体制を強化するとともに、適切な時期に在宅緩和ケアを提案できるコーディネーターの養成に努める	(イ)退院調整リンクナース会で「緩和ケア在宅支援症例」の事例検討会を実施(4/年)	(イ)平成28年度「がん患者退院調整従事者研修」に地域医療連携室勤務看護師1名参加 退院調整リンクナース会で「緩和ケア在宅支援症例」の事例検討会を実施(2回/9月末現在)	
		(イ) 退院時カンファレンスを在宅医を含めた在宅医療スタッフが出席可能な時間帯に設定するよう努める (イ) 在宅緩和ケア連携クリニカルパスの普及・活用のため必要な対策を講じる	(イ)退院前カンファレンス実施に向け、在宅支援診療医が参加可能な時間帯を調整している(4回/年開催した)	(イ)退院前カンファレンス実施に向け、在宅支援診療医が参加可能な時間帯を調整している(4回/9月末現在)	

第2期 高知県がん対策推進計画 < 施策の推進状況について >

別紙

■看護協会における取組

	取り組む施策	取組項目	平成27年度の実績	平成28年度の実績(計画含む)
■がん患者等への支援	イ 相談窓口に関わる人材育成	(イ) 医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会等の関係団体は、医師等医療関係者のコミュニケーション能力の向上や医療コーディネーターの育成などに努め、患者との意思疎通を一層図れるように努める	該当なし	該当なし
■地域提の供医療制・介護構築	ア 医療・介護サービス従事者の育成	(イ) 訪問看護ステーション連絡協議会及び看護協会は、関係団体と協力して、訪問看護師の育成・研修システムを早期に確立し、「みとりのできる訪問看護師」の養成を目指します。	在宅緩和ケア従事者研修(委託事業) ・平成28年1月16日(土) 3時間 高知の看取りの現状と課題～訪問診療からみえるもの～ 31名 ・平成28年1月16日(土)・17日(日) 9時間 看取りのプロセス～退院からデスカンファレンスまで～ 28名 ・平成28年2月13日(土) 6時間 がん緩和のリハビリテーション 31名 継続教育研修(看護協会独自) ・平成27年11月14日(土) 6時間 病と共々生きる患者・家族へのエンド・オブ・ライフケア 30名	在宅緩和ケア従事者研修(委託事業) ・平成28年12月17日(土) 30名予定 リンパ浮腫の診断とケア 3時間 リンパ浮腫のケアの実際 3時間 ・平成29年2月11日(土)・12日(日) 16時間 がんにおける質の高い在宅緩和ケアを学ぼう～ELNEC-J in高知」 30名予定 定 継続教育研修(看護協会独自) ・平成28年9月1日(木) 6時間 病と共々生きる患者・家族へのエンド・オブ・ライフケア 37名

第2期 高知県がん対策推進計画 < 施策の推進状況について >

別紙

■ 検診機関における取組

	取り組む施策	取組項目	平成27年度の実績	平成28年度の実績状況(計画含む)
■ がん 予防 及び 早期 発見 の 推進	【早期発見】 エ がん検診	(ウ) 検診機関は要精密検査対象者のフォローアップを行い、未受診者に対する受診勧奨に努める	<p>各種がん検診の機器整備や体制の精度向上を図り、関連機関との連携強化を密にして各種がん早期発見に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域子宮頸がん検診LBC法の完全実施 ○施設内視鏡検査NBIシステム導入による食道がん発見の向上 ○高知県立大学と共同研究(大腸がん検診で精密検査を受診した人のillness behavior(第1報)) ○がん征圧月間各種がん無料検診実施 	<p>公的な検診機関のフォロワーとしての責務を果たすべく以下の内容に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職域・ドック検診における各種がん検査についての精密未受診への勧奨を強化する。 ○各種X線デジタル検査における画像データを可能な限り精密受診医療機関へ提供し診断判定における情報の向上を図る(CD)

第2期 高知県がん対策推進計画 <<施策の推進状況について>>

別紙

■医療機関における取組

施設名 仁淀病院

	取り組む施策	取組項目	平成27年度の取組実績	平成28年度の取組状況(計画含む)
■がん医療水準の向上	エ セカンドオピニオン体制の整備	(ア) がん診療に携わる医療機関は、患者が当たり前にセカンドオピニオンを受けられよう体制を整備する	セカンドオピニオン外来	セカンドオピニオン外来継続
		(イ) がん診療に携わる医療機関は、セカンドオピニオンの活用促進のため、患者や家族への普及啓発を図る		
	オ 小児がん対策	(ア) 小児がん拠点病院との役割分担及び連携を進め、小児がん対策を推進する	小児科外来での支援体制	小児科外来での支援体制継続
		(イ) 患児が成長発達する時期を可能な限り慣れ親しんだ地域に留まり、他の子どもたちと、同じ生活・教育環境の中で医療や支援を受けられるような環境を整備する		
■等への支援者	ア がん相談体制の整備・充実	(ウ) 患者に診断内容等を説明する際は、冊子や視覚教材などの分かりやすい教材の活用や、看護師やソーシャルワーカーの同席など患者やその家族が十分理解できる環境を整備する	診断治療内容などの説明用のパンフレットを用意して説明し、看護師または相談員が同席するようにしている	説明内容の解るパンフレットの充実、ピアカウンセラーの協力を得たり、看護師や相談員などの同伴等を行っているが今後も整備し継続
■の緩和ケア	イ 緩和ケア実施体制の充実	(エ) 県民及び医療・福祉従事者が緩和ケアの意義やがんと診断された時からの緩和ケアの必要性について正しく知り、治療方針や療養の選択肢として理解を深めることができるよう、情報提供及び普及啓発を行う	月一回のがんサロンの開催	月一回のがんサロンの継続
■地域の医療・介護サービスの構築	イ 在宅医療・介護サービス提供体制の構築	(イ) がん診療を行う病院は、緩和ケアスタッフと専門科スタッフの連携体制を強化するとともに、適切な時期に在宅緩和ケアを提案できるコーディネーターの養成に努める	仁淀病院が中心となり吾川郡医師会と病院診療所、訪問看護ST、行政、介護施設などが連携した在宅療養の支援体制を構築されて来ているが、平成27年11月からクラウドを使った情報共有システムを稼働させ、患者さんの情報をPCや携帯端末などを用いて多施設・多職種間で情報を共有して、在宅医療・介護の療養支援に生かす取組を始めた。(いの地区で在宅医療・介護情報連携協議会を立上げ、在宅医療介護の連携のとしてを利用したネットワークシステムを構築し患者の情報共有を行っている)	いの地区で、仁淀病院を中心となり吾川郡医師会などと協力し、病院診療所、訪問看護ST、行政、介護施設などと多施設多職種が連携した在宅療養の支援体制が整ってきています。このネットワーク体制を活用して、高知大学医学部にサーバーを置きICTを利用した情報共有システムが28年4月から稼働しており、患者さんの医療などの種々の情報がPCや携帯端末などで多施設・多職種間でリアルタイムに共有が可能となり、在宅医療・介護の療養支援に生かされ始めている。
		(ウ) 在宅医療提供機関は、医師会や病院と連携し在宅での医療のみで患者や家族を支えきれないときのためのバックアップの確保等、病診連携のためのシステムを構築する		
		(エ) がん診療を行う病院は、退院時カンファレンスを在宅医を含めた在宅医療スタッフが出席可能な時間帯に設定するよう努力する 在宅緩和ケア連携クリニカルパスの普及・活用のため必要な対策を講じる		

第2期 高知県がん対策推進計画 <<施策の推進状況について>>

別紙

■高知緩和ケア協会における取組

	取り組む施策	取組項目	平成27年度の実績	平成28年度の実績状況(計画含む)
<p>■ 地域 提の 供医 療制 ・介 護サ ー ー</p>	<p>イ 在宅医療・介護サービス提供体制の構築</p>	<p>(ア) 県及び関係団体は、「在宅緩和ケアに関する県民向け講演会」を開催するとともに、社会資源や様々な制度についてホームページへの掲載や、啓発冊子の作成などにより、情報提供を行う</p>	<p>県民向けの講演会を1回開催。(平成27年5月17日(日)) ※第20回豊かないのち講演会 高知県(高知県在宅緩和ケア推進連絡協議会)との共同開催 参加人数=約228名</p>	<p>県民向けの講演会を1回開催。(平成28年5月15日(日)) ※第21回豊かないのち講演会 高知県(高知県在宅緩和ケア推進連絡協議会)との共同開催 参加人数=約178名</p>

第2期 高知県がん対策推進計画 <<施策の推進状況について>>

別紙

■訪問看護ステーション連絡協議会における取組

	取り組む施策	取組項目	平成27年度の実績	平成28年度の実績(計画含む)
<p>サ ー ビ ス 提 供 体 制 の 構 築</p> <p>■地域の医療・介護</p>	<p>ア 医療・介護 サービス従事者 の育成</p>	<p>(イ) 訪問看護ステーション連絡協議会及び看護協会は、関係団体と協力して、訪問看護師の育成・研修システムを早期に確立し、「みとりのできる訪問看護師」の養成を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県立大学インテンシブコースへの参加 ・訪問看護スタートアップ研修への参加 11名 ・訪問看護ステーション52か所中、 ターミナルケア受入可能ステーション 37か所 (71%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県立大学インテンシブコースへの参加 ・訪問看護スタートアップ研修への参加 ・訪問看護ステーション57か所中、 ターミナルケア受入可能ステーション 47か所 (82%)

■ 医師会における取組

	取り組む施策	取組項目	平成27年度の実績	平成28年度の実績状況(計画含む)
■ 早期がん発見の普及	【がん予防】 ア 喫煙対策	(ア) 医師会は、禁煙治療に保険が使える医療機関を増やし、禁煙治療を受けやすい環境づくりに努める	禁煙治療研修の講演会を開催し、更なる知識の習得、治療技術の向上を図った。	禁煙治療研修の講演会を引き続き開催し、更なる知識の習得、治療技術の向上を図りたい。高知県では受動喫煙対策が遅れており、県との協働で禁煙・受動喫煙対策・防煙教育等を進めていきたい。
■ がん患者等への支援	イ 相談窓口に関わる人材育成	(イ) 医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会等の関係団体は、医師等医療関係者のコミュニケーション能力の向上や医療コーディネーターの育成などに努め、患者との意思疎通を一層図れるように努める	がん関連の講演、公開講座等に後援、広報に努め、がんに関する知識や情報を広めた。引き続き地域医療カンファレンスを開催し、在宅でのがん患者へのカンファレンスを行うことにより多職種間の参加したカンファレンスを続ける。	27年度の実績を継続して実施していく。
■ がん登録の推進	ア 地域がん登録の推進と登録情報の活用	(ア) 県医師会は、地域がん登録の精度向上のために、地域の医療機関に地域がん登録について周知し、定期的に地域がん登録への協力依頼を行う	がん登録について周知、協力を依頼。「がん登録推進に関する法律」が2016年1月から施行され、届出は指定された病院・診療所が行うこととなった。特に診療所は手上げ方式になっており、診療所に対して登録をすすめる様周知した。	がん登録について、周知、協力の依頼を継続して実施していく。

■県歯科医師会における取組

	取り組む施策	取組項目	平成27年度の実績	平成28年度の実績状況(計画含む)
■がん患者への支援	イ 相談窓口に関わる人材育成	(イ) 医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会等の関係団体は、医師等医療関係者のコミュニケーション能力の向上や医療コーディネーターの育成などに努め、患者との意思疎通を一層図れるように努める	(なし)	引き続き、医師等医療関係者のコミュニケーション能力の向上や医療コーディネーターの育成などに努め、患者との意思疎通を一層図れるように努める。
	■地域の医療体制・介護サービスの構築	ア 医療・介護サービス従事者の育成	平成25・26年度に実施した歯科領域の専門職研修である「高知県がん患者医科歯科医療連携講習会」により、高知・幡多地区を中心として、周術期における口腔機能管理が徐々に実施され始めた。しかし幡多地区以外では、病院歯科以外の連携歯科医療機関での実施は、ほとんど行われていない現状に状況に変化はない。	「高知県がん患者医科歯科医療連携講習会」を引き続き開催し、歯科領域の専門職(連携歯科医師)の更なる増加を図るとともに、全県下的に周術期における口腔機能管理システムを浸透させていく。なお、本年度後半より幡多地区では、幡多けんみん病院入院中の患者に対し、術前・術後の口腔機能管理を往診の形で実施開始すると聞いている。
	イ 在宅医療・介護サービス提供体制の構築	(カ) 県歯科医師会は、歯科医師の在宅診療の可否等の確認を行うとともに、県民に対しては、在宅歯科連携室の周知活動を行う	各種広報活動等により、県民の「在宅歯科連携室」に対する認知度が、徐々に上昇し始めた。	県民に対して、「在宅歯科連携室」の更なる周知活動を行うとともに、その充実を目指している。本年度後半より担当歯科衛生士を2名に増員し、訪問依頼から実施までの期間短縮を実現した。また来年度に向けて、衛生士の訪問に利用する車両等の予算要望を提出中である。また同じく来年度中に、幡多地区に「在宅歯科連携室」を設置すべく予算要望を提出中である。

■県薬剤師会における取組

	取り組む施策	取組項目	平成27年度の実績	平成28年度の実績状況(計画含む)
■がん患者への支援	イ 相談窓口に関わる人材育成	(イ) 医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会等の関係団体は、医師等医療関係者のコミュニケーション能力の向上や医療コーディネーターの育成などに努め、患者との意思疎通を一層図れるように努める	定期的に医師会、歯科医師会、看護協会との情報交換及び各団体からそれぞれの立場を取り巻く環境等報告し、情報を共有すること、また各支部での地域包括ケア会議等に薬剤師を派遣し、多職種が連携することで在宅や薬薬、医薬連携等を実践しコミュニケーション能力の向上に努めている。 本会及び医師会、歯科医師会等が主催する講演会、研修会に積極的に参加している。 「高知家お薬プロジェクト」による多職種が連携できる情報共有カードを作成し実践中。	平成27年度と同様に活動を継続していく。
	■地域の医療・介護サービスの構築	ア 医療・介護サービス従事者の育成	(エ) 訪問薬剤師の育成・研修システムの確立を目指す	H27 9/15(火)「在宅医療と薬薬連携実践研修会」安芸コミュニティセンター(25名) 9/27(日)「在宅訪問に関する基礎知識研修会」高新文化ホール(87名)午前 「他職種連携研修会」高新文化ホール(49名)午後 H28 1/31(日)「飲み残し薬対策研修会」高知会館(58名)
	イ 在宅医療・介護サービス提供体制の構築	(オ) 麻薬や中心静脈栄養剤などの特殊薬剤を含めた薬剤の在庫共有システムの構築を目指す		